

関連科目、教科書および補助教材	
関連科目	経済学 I
教科書	飯田幸裕、岩田幸訓「入門経済学」創生社
補助教材等	伊藤元重「マクロ経済学」日本評論社
学習上の留意点	
<p>授業はテキストのみならず配布の資料を用いて行うが、用語の理解を早めるために該当するテキストの範囲を予習することを求める。演習問題では数式を使った問題を中心に行う。レポートでは、提出要件に従った適切な形式になっているか提出前の自己点検を求める。</p>	
担当教員からのメッセージ	
<p>経済学 I, II で行うミクロ経済学、マクロ経済学は経済活動のある種のモデルとして捉え、現実の経済を視るための道具となるものです。その考え方をなるべく適切に説明するために複雑で難しい言葉となりがちなのと、数式を使ったモデルが出てきますので、文理両方の力を鍛えてください。</p>	

授業の明細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	ガイダンス	マクロ経済学の視座について説明を聞き、その全体像を概要として理解する	次回以降の予習を行う
2	国民経済とGDP	消費者行動理論について、概要ならびに消費者行動を決定する要素が何か理解できる	次回以降の予習を行う
3		三面等価の原則、国民所得などの概念が理解できる	次回以降の予習を行う
4	財市場の均衡	消費関数、貯蓄関数などを理解し、経済循環の基本が理解できる	次回以降の予習を行う
5		均衡国民所得の決定について理解できる	次回以降の予習を行う
6		IS曲線の導出過程について理解できる	次回以降の予習を行う
7	貨幣市場	貨幣市場について理解でき、貨幣の機能について理解できる	次回以降の予習を行う
8	中間試験		
9	IS-LM分析	貨幣市場の均衡について理解できLM曲線を導出できる	次回以降の予習を行う
10		IS-LM分析について理解でき、金融政策、財政政策の効果について分かる	次回以降の予習を行う
11	AD-AS分析	総需要曲線について理解できる 労働市場の均衡条件について理解できる	次回以降の予習を行う
12		総供給曲線について理解できる	次回以降の予習を行う
13		物価の水準、フィリップス曲線などについて理解でき インフレーション、デフレーションの諸概念が理解できる	次回以降の予習を行う
14	開放経済における国際収支	開放経済における国際収支に関する諸概念、知識について理解できる	次回以降の予習を行う
期末試験			
15	まとめ	期末試験の解説とともに、全体の学習事項のまとめを行い、それを理解できる	
総学習時間数			45 時間
講義			30 時間
自学自習			15 時間